

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要票

作成日：平成19年11月12日

【評価実施概要】

事業所番号	2875000917		
法人名	株式会社グロリアコーポレーション		
事業所名	グループホームめぐみの丘Ⅲ		
所在地	(〒 651-1132) 兵庫県神戸市北区南五葉6丁目9-20		
	電話	078-593-5067	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成19年10月2日	評価確定日	平成19年11月12日

【情報提供票より】 [平成19年9月14日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年3月15日		
ユニット数	1ユニット (利用定員…計9人)		
職員数	13	(常勤1人) (非常勤12人)	/ 常勤換算4.1人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	地上2階建て建物の1、2階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59,000円	その他の経費(月額)	22,300円	
敷金の有・無	有り (円) ・ (無し)			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り (円) (無し)	(保証金有りの場合)保証金償却の有・無	有り ・ 無し	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日あたり		830円	

(4) 利用者の概要 (平成19年6月29日 現在)

利用者人数	計9名 … (男性1名) (女性8名)		
要介護1	1名	要介護2	4名
要介護3	3名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均81歳 … (最低60歳) (最高94歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	頭修会すずらん病院	西原内科クリニック	いまうえ歯科医院
---------	-----------	-----------	----------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

建物は一般民家を改修したもので、周囲の街並みに馴染んでいる。戸外の空気を感じ開放的な気分を持てるよう、リビングから通じるウッドデッキを設置し、また、植木、菜園、ウサギの飼育…等々、庭を上手く活用している。日中は、利用者の多くは、リビング・食堂に集まり、職員を交え談笑し、カラオケを楽しんだり、和やかに過ごしている。地元の業者さんが、設備関係、営繕や雑用も含め手助けしてくれており、温かな地域交流がなされている。遠方(海外も含む)に住んでいる家族へも、Eメールでの近況報告(最近の様子を写した写真も添付)をしており、入居者・家族・ホームの絆を大切にしている。職員は、近隣に居住している人を採用し、異動は極力無くしており、定着率は高い。◎添付の資料写真も参照

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ①居室床の改修、②介護計画の作成において職員の意見を反映、③ホーム外へ出かける機会の増加、④家族への情報提供(様子を伝える)…など、多くの改善がなされた。退去支援に関する重要事項説明書への記載については、今後の改善課題として残る。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 管理者・ケアマネジャー・職員を交えた会議で、取り組んだ。自己評価や第三者評価はケアサービスの見直しに繋がるものとの思いで、その内容や改善への取組みに重きを置いている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 運営推進会議は、概ね3か月に1度の頻度で開催し、ホームの現況報告をしている。会議メンバーは、自治会長、地域包括支援センター職員、民生委員のほか、ホーム側の出席者は、運営主体である「グロリアコーポレーション」の代表者により、構成している。今後は、利用者やその家族にも出席してもらえるよう働きかけをしてほしい。また、議事録を残し、実践に移した事柄とともに、ホーム職員や家族等にも報告をしてもらいたい。
重点項目②	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 利用者の日常の様子や健康状態などは担当者が書面に記録し、ホームの行事の際の写真も添えて、家族に報告(送付)している。また、「めぐみの丘便り」として、2か月に1度の頻度で担当職員が利用者各々について手紙を書き、家族に送付している。家族は、電話、Eメール、面会により、ホームに対する思いを伝えている。ホーム内にも「意見箱」を設置することで、意見や苦情等を聴きやすくしている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 日常において、近隣住民と挨拶をかわし、話しかけられ…との関係ができており、自治会の回覧板の受け渡しなども行なっている。自治会主催の行事はあまり多くはないので、ホーム側の取組みとして、ホームにて行事を行なう時は、地域へ声かけをし、近隣住民を招待するなどしてもらえれば、交流がさらに深まると思う。
重点項目④	



▲ ウッドデッキ



▲ 上方へ洗剤収納（事故防止の工夫）



▲ 協働（洗濯物干しと、手作りのチラシ寿司）



2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「個人の尊厳が保たれ、生涯その人らしい生活をおくれるよう支援すること、また、その家族も安心して日常生活や社会活動に従事出来るように支援すること」を基本理念とする。地域住民とのつながりを大切に、地域でのネットワークを強化することにより、利用者が地域の一員として暮らせるよう支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内のよく見渡せる場所に理念を掲示し、全体会議や勉強会を毎月開催しながら理念の浸透を図れるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣住民とは日常的に挨拶を交わし、自治会回覧板の受け渡しなどを行なっている。地域自治会主催の催事は少ない。	○	ホーム行事を行なう時は、地域に対して積極的に案内し、近隣住民を招待するなど、住民との交流機会を増やしてほしい。また、地域包括センターの職員への協力依頼もして、地域における多くの方々が行事に参加できるようにしてはどうか。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回指摘の改善項目に対して積極的に取り組むことができた。自己評価や第三者評価は、ケアの見直しにつながるものであり、ホームとして重視している。	○	今後も、自己評価、第三者評価をケアの質向上のためのツールとして、有意義に活用してほしい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や話 し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に 活かしている	運営推進会議には、自治会長、地域包括支援セン ター職員、民生委員、ホーム代表が出席している。	○	運営推進会議開催時のメンバーに、利用者やその 家族、他職員(管理者など)も加え、また、会議の議 事録を作成し、ホーム職員や家族等にも配布してす ることが望ましい。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外に も行き来する機会をつくり、市町とともにサー ビスの質の向上に取り組んでいる	3カ月に1回程度開催される区主催の連絡協議会に 参加し、同業者との交流も図っているが、これにつ いての議事録等は整備されていない。	○	議事録や資料を整備し、全職員が情報を共有でき るような仕組み(組織とフロー)を作ってもらいたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、 金銭管理、職員の異動等について、家族等に定 期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日常の様子や健康状態などは、日々担当 者が記録し、これをホームの行事の際の写真も添え て報告している。また、「めぐみの丘便り」として、2カ 月に1度の頻度で、担当職員が利用者各々について 手紙を書き、家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運 営に反映させている	家族会は結成されていないが、家族は、電話やメー ル、面会時などにホームに対する思いを伝えており、 ホームは、それらの意見をケアに反映させるように努 めている。「意見箱」をホーム内に設置し、意見や苦 情等を受け付けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員に よる支援を受けられるように、異動や離職を必 要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利 用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できる限りは、近隣に居住している方を職員に採用 し、異動も極力しないようにしている。この1年間、職 員の顔ぶれは定着している。離職者が出た場合に は、それが利用者へ影響しないよう(できる限り小さ く納まるよう)、対応している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法により義務化された研修は、事業者(会社)負担で参加し、受講者は報告書を作成し、伝達研修を行っている。看護師による研修その他勉強会を毎月開催し、その際の資料等をホーム内で回覧して周知を図っている。また、外部者の視点を意識するその1つの方策として、実習生の受け入れを積極的に行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3カ月に1回開催される区主催の介護保険事業者連絡会議に参加し、情報交換や施設見学などを行ない、相互交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談受付時に家族や関係者から本人の状態を聴き取り、また、入居後に本人の混乱が見られる時には、家族等に訪問回数を増やすよう依頼し、一緒に食事をしたりしながら、ホームに馴染んでもらうよう支援している。	○	ホーム入居前の家庭訪問その他、入居前に本人と職員が顔合わせをする機会を設けてほしい。
に					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日常の家事を中心に、入居者の能力・得意とすることを引き出しながら、利用者とともに日々を過ごすことにより、お互いを理解し、支え合う関係を築いている。また、各職員は、適宜話し合う場を設け、利用者の情報を共有している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前後のアセスメントをはじめ、日々の生活の中での言葉や態度から、意向や希望を汲み取り、カンファレンスで支援方法の検討と情報共有を行なっている。ほとんどの入居者の家族が「自宅にいる時より、心身ともに落ち着いた」と思っている。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを毎月行ない、3カ月の短期目標、6カ月の長期目標による介護計画を、ケアマネジャー主導のもと作成しているが、家族に対しては報告のみに留まっている。医療連携体制加算の詳細について説明不足である。	○	家族に対して、介護計画の作成および医療連携加算についての詳細な説明をしてもらいたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の状態などを記録したケース記録を参考に、3～6か月に1度、介護計画を見直している。状態変化がある場合は、会議や申し送りで検討のうえ、随時、介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっており、非常勤の看護師を配置している。24時間いつでも医師の往診依頼や電話による相談ができる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医によって月に1回の往診がなされている(他の医療機関での受診も可能)。歯科については、その都度受診支援をしている。利用者の中にはホームへの訪問歯科(その人のかかりつけ医)を利用している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した時の対応については、ホーム運営者その他関係者のほか、家族やかかりつけ医等を交えて、繰り返し話し合いをしている。「重度化指針」を家族と共有し、看取り介護についての同意書も取り交わしている。ここ1年で3名について看取り介護した実績がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各職員は、声のかけ方や言葉使いに気を配りながら、利用者の誇りを傷つけないよう心掛けている。トイレ誘導はそれぞれの利用者のパターンを把握し、前もってさりげなく声かけを行ない、入浴時はプライバシーに配慮しながら見守りの姿勢で支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各職員は、一人ひとりの行動パターンを把握しており、会話や行動から本人の気持ちや思いを察知し、自然の流れの中で話しかけることのできる雰囲気を作りっている。カラオケを楽しむ方もいれば、習字や絵画を楽しんでいる方もいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞き取りながら献立し、利用者の能力に応じて、食材切や食事準備、調理、盛り付け…等々を職員と協働している。職員と一緒に食事をし、後片付けも協働している。定期的に外食に出掛け、また、ウッドデッキでバーベキューをすることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日や入浴時間はだまかに決められているが、シャワー浴は、希望によりいつでもすることができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の力量に合わせて日常上の役割(食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、庭の水撒き等)を決めている。週に2~3回は近くのスーパーへ買物に行く。午後は入浴やレクリエーション(カラオケや体操など)の時間にあて、季節行事や誕生会なども組み入れている。男性の利用者は庭の手入れやウサギの世話をし、季節野菜を育て、収穫を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物は日常として行っており、訪問調査当日も多くの利用者で散歩に出掛けていた。定期行事として、外食ツアー、しあわせの村散策ツアー、須磨水族園見学、フルーツフラワーパーク散策ツアーなどを楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、利用者の居場所を把握しており、常に安全に配慮している。敷地内(1階・2階・庭)は自由に行き来できるよう玄関は開放されている。庭に設置されたウッドデッキにはリビングに通じ、リビングから直接に出ることができる。ホーム外に出掛けた際は、後から職員が後を付いて見守っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時対応方法は「介護サービス管理手順書」に明記され、それを家族に交付して情報を共有しているが、避難訓練については、未だ行なったことがない。	○	できる限り早期に、避難訓練を実施してほしい。また、定期的実施するようお願いしたい。訓練開催においては、地域住民に参加の呼びかけを行なうなど、地域の協力を得ていただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりのカロリーやバランスを考えうえで、食事作りを行ない、「食事摂取量」を表に記録しているが、「水分摂取量」については記録はしていない。食事がとれない場合は、他の食品で栄養の補給をしたり、医師に栄養補助食品を処方してもらっている。	○	水分摂取量についても、大まかにでも把握しておいていただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は戸建住宅であるものの、庭は広い。リビングからウッドデッキを経由して、庭に出ることができる。玄関周りや庭には季節の草花や木を育て、庭ではうさぎを飼っている。食堂や居間は窓が大きく、晴れた日は明るく気持ちよい。部屋の中心部の明るさはやや不足しており、照明の追加を検討している。現在、1・2階の昇り降りは、階段利用によるが、エレベータ設置の検討している。	○	照明の追加設置、エレベーター設置について、進めてもらいたい。ホーム外壁に掛けられた看板が見えにくくなっているので、改善をお願いする。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には使い慣れた家具や調度品を持ち込み、作品や写真などで飾りつけをし、入居者それぞれの個性を活かした居室作りができ、住まいとして、落ち着いた生活環境になっている。仏壇、三味線を持ちこんでいる利用者や、自室で都々逸を楽しむ利用者もいる。		

※  は、重点項目。